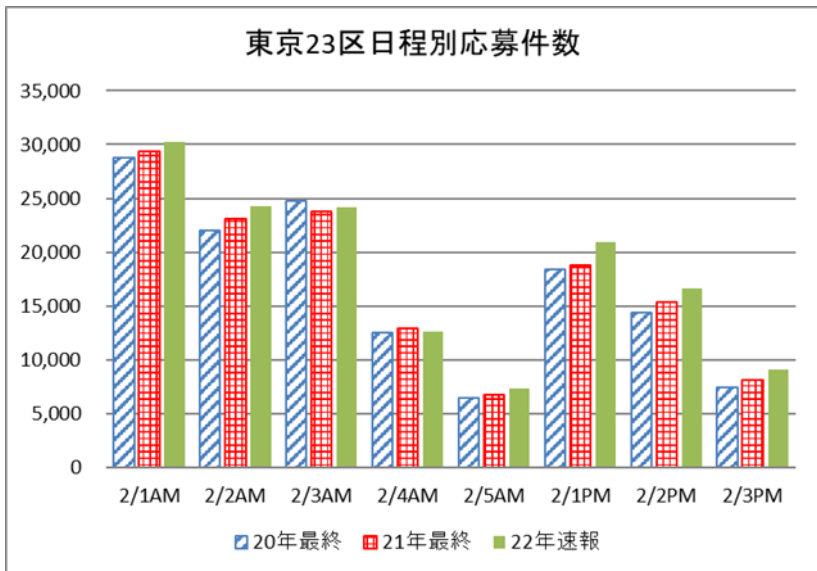


# 東京23区私国立中入試概況

## 1. 概況 今年も中学受験は拡大、コロナ禍に負けていない

東京23区の公立小6児童数は義務教育学校も含めて約64,400名で昨年より約300名増えています。東京23区内の中学受験の応募総数は、私立、国立、公立一貫校の合計で、2月28日現在、1月までの帰国入試を含めて158,500件あまりです。昨年の最終が約150,000件でしたから、一昨年、昨年に続いて増加が続きました。入試結果未公表の学校や、コロナ禍対応の追加入試、二次募集を行う学校もあり、最終的にはこれらの応募者数が上乗せされます。実際の受験者数も113,800名あまりと、昨年最終より約4%増加、合格者数は41,600名あまりでした。この数字には、コース制実施校での入り易いコースのスライド合格や、特待入試での一般合格が含まれていない学校もありますから、「入学できる」合格者はもっと多くなりますが、同じ基準で昨年の最終と比較すると約6%増えています。昨年は実受験者数が約2%増加、合格者数も増加率が約2%でしたから、あくまでも平均で見ての話ですが、今年は平均倍率がやや緩和したことになります。

上のグラフは東京23区内の2月1日以降の中学受験の応募者数を日程別に合計し、一昨年、昨年と比較したものです。今年は速報値で、私立、国立、公立一貫校の合計ですが、都内で実施される地方寮制校の入試は含んでいません。応募総数では2月1日午前が最多で、昨年よりも3%、約900件増加しています。1日午前には多くの受験生が第一志望校に挑戦する日ですから、23区内の中学受験の拡大を示しています。2番目は2日午前、3番目が3日午前ですが、ほとんど同じです。ただ、2日午前は昨年よりも1,200件以上増えたのに対して、3日午前には500件弱の増加に留まっています、昨年並みといってよい状況です。4日午前、5日午前になると応募総数は3日午前までと比べると小さな規模で、1日午後や2日午後よりも少なく、今年も多く受験生が3日午前までに受験を終了してしま



す。

午後入試は、グラフのように1日午後、2日午後、3日午後とも応募者数が増えている、1日午後には2,100件以上増加、率では11%を超えている、一番増えました。2日午後も1,300件、8%を超える増加です。午後入試の人気ですが、1日午前に開成、2日午前に聖光学院や、1日午前に麻布、2日午前に栄光学園といった、難関校を連続して受験するような(近年は減っていますが)受験生は、英気を養うために午後入試をあまり受けないような傾向が今まで見られましたが、今年はこのような受験生も1日午後にはしっかり受験する、といったケースが増えたようです。なお、3日午後も増えていますが、総数はあまり多くありません。

次に難度別の応募総数の推移も見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA~Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。Aは最難関校、Bは上位校、Cは中堅校、Dはやや入り易い学校、Eは入り易い学校です。各グループの学校は25ページに一覧で示しました。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外していません。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・

女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とは異なる場合があります。

男子はBグループの応募者が一番多く、応募総数の約4割を占めていて、増加も目立っています。一方、Cグループは大きく減っています。昨年はCグループが集中的に増えていました。こうしたことが起きる理由には、受験生の志向もありますが、昨年と今年に限れば、昨年実質的な新設校でスタートした広尾学園小石川が、事前の模試での難度予測からCグループにカウントされていたのが、今年はBグループに移った影響が大きく出ています。昨年は首都圏3位の多くの応募者を集めた同校ですから、グループが動くグラフにはっきり出てきます。ただ、BグループとCグループを合計すると約3%増えていて、最上位のAグループは昨年並み、厳密には微減ですから、男子では今年の中学受験では最難関校よりも中堅～上位校の人气が高かったことがわかります。また、一番入り易いEグループも約2,000件増と大きく増加しました。中学受験のすそ野が広がっていることに加え、安全志向の強まりで、昨年なら何としてもDグループ校に、といった受験生の応募が増えたようです。

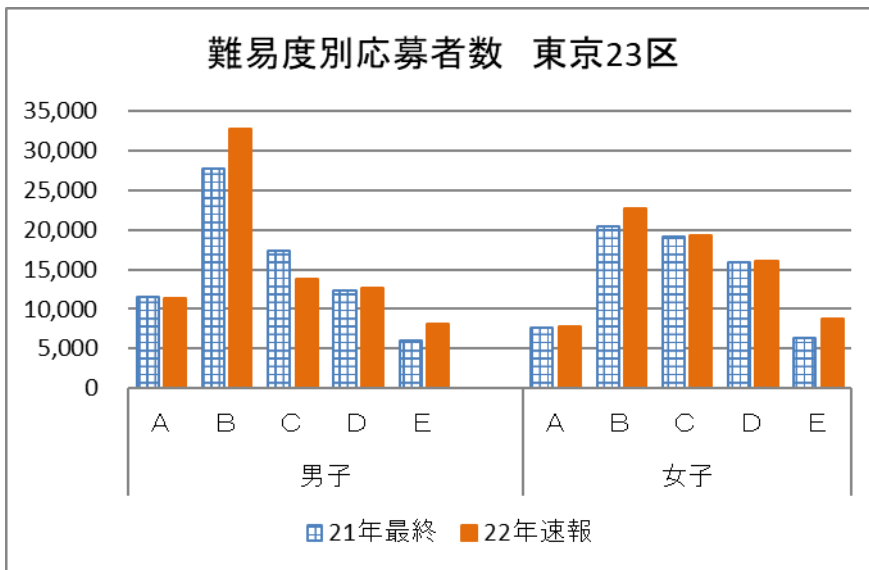
女子はもともと男子ほどB・C・Dグループの応募者数の差が小さいのですが、やはりBグループが増えています。男子と同じで広尾学園小石川の影響ですが、B・Cグループを合計すると約6%増えていて、男子と同様、中堅～上位校の人气が高かったことがわかります。ただ、グラフでは目立ちませんが、女子では最難関校のAグループも少し増えていて、男子よりも挑戦志向が高いことがわかります。また、Eグループの増加も男子と同様で、2,500件近く増えています。以下、男子校、女子校、男女校の順で各校の状況を見ていきます。公立一貫校は別稿にまとめました。

女子はもともと男子ほどB・C・Dグループの応募者数の差が小さいのですが、やはりBグループが増えています。男子と同じで広尾学園小石川の影響ですが、B・Cグループを合計すると約6%増えていて、男子と同様、中堅～上位校の人气が高かったことがわかります。ただ、グラフでは目立ちませんが、女子では最難関校のAグループも少し増えていて、男子よりも挑戦志向が高いことがわかります。また、Eグループの増加も男子と同様で、2,500件近く増えています。以下、男子校、女子校、男女校の順で各校の状況を見ていきます。公立一貫校は別稿にまとめました。

## 2. 男子校

### <難関校～中上位校>

まず男子御三家から。開成の応募者数は安定傾向で、今年は若干減りましたが、目立つほどではありません。



ただ、昨年は欠席者が大きく増えましたが、今年も昨年よりは減ったものの、一昨年までよりは増えています。今年も安全志向が強く、挑戦志向が弱まっているため、渋谷幕張などに先に合格した受験生が「もういい」として断念したのでしょうか。合格者数は昨年より少し増えていますが、合格最低点は昨年並みで、今年も高難度の厳しい入試でした。

麻布の応募者数は、一昨年は増加、昨年は減少、今年が増加と隔年的に変化しています。実際の受験者数も同じ傾向で、合格者数は昨年並みですから実質倍率は上がっています。合格最低点は昨年と同じでした。もともと高難度ですから、少々倍率が上がってもあまり難度は変わりません。武蔵の応募者数は、一昨年が少し増えていて、昨年はやや減少、今年が増加と隔年的な変化です。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、実質倍率は上がっています。合格最低点がかかなり上がっていて、今年は伝統の理科の観察問題(俗に言う「お土産問題」)の記述の比重が下がったことが影響しているようですが、それを踏まえてもやや難化しているようです。

御三家と並ぶ難関校の駒場東邦は、昨年まで3年間応募者の増加が続きましたが、今年は減りました。難化傾向が続いていたこともあって、人气が一段落したのでしょうか。実際の受験者数も減りましたが、合格者は昨年並みで実質倍率は緩和しています。合格最低点は少し下がっていますが、もともと高難度ですから、入り易くなったとは言えません。国立の筑波大駒場は、一昨年は応募者数が減少、昨年は一昨年並み、今年再び減っています。実際の受験者数も減りましたが、

合格者数は昨年並みです。実質倍率は緩和しましたが、合格最低点は昨年よりも少し上がっていて、出題内容との関係はありますが、可能性が低くても同校に挑戦したい、という受験生が減ったための応募者の減少だったようです。今年も高難度の入試でした。

海城は、各回次合計の応募者数は一昨年からやや増加、昨年は一昨年並み、今年は厳密には増えていますが、昨年並みと言ってよい水準で、安定した人気です。回次ごとでは1月の帰国生入試と2月3日の2回が少し増えています。実際の受験者数も少し増えましたが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は帰国生がやや上がっていますが、1日の1回や3日の2回は昨年並みで、難度に変化はなかったようです。早稲田は、一昨年は2月1日の1回、3日の2回とも応募者数が増加、昨年は減少していました。今年は1回はやや減、2回はやや増えて、合計では昨年並みです。実際の受験者数も同じ傾向で、合格者数は2回が少し増えました。合格最低点は1回が少し下がり、2回が昨年並みです。出題内容との関係はありますが、1回はやや入りやすくなったかもしれません。2回は昨年並みの難度でしょう。

暁星は長い間2月3日に1回だけの入試でしたが、一昨年から一般入試と同時に進んでいた帰国生入試を12月に独立して実施、一般入試も2月2日午前の1回と3日午後の2回の複数回実施としました。この結果、各回次合計の応募者数はその前年の2倍近くに増えました。昨年はその人気落ち着いたようで、1・2回とも応募者数が減りましたが、今年は再び増加して隔年的な変化になってきました。実際の受験者数も増えましたが、1・2回とも合格者を絞っていて、実質倍率が上昇しています。ただ、1回は合格最低点が昨年並み、2回はやや上がったただけでした。出題内容の影響もありますが、難度はあまり変わっていないのかもしれませんが。

芝は、一昨年2月1日の1回、4日の2回とも応募者数が減っていて、昨年は1回が一昨年並み、2回は続けて減っていました。今年は1回が少し増えて2回は少し減り、合計では昨年並みです。実際の受験者数は1回、2回とも少し増えていて、合格者数は両方も昨年並みでした。1・2回とも実質倍率が少し上がったこともあって、合格最低点は1回が少し上がり、2回も若干ですが上がっています。1回はやや難化したかもしれません。2回は難度的には昨年並みでしょう。

巣鴨は2018年、2019年と入試を増設して人気が上が

り、応募者数の増加が続きましたが、昨年、今年と各回次とも減っています。難化が続いていた反動でしょう。実際の受験者数、合格者数も減っています。昨年は受験者数が減っても合格最低点は一昨年の水準が続いていましたが、今年は各回次とも下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったようです。城北は、一昨年は各回次とも応募者が増えている、昨年は2月1日午前の1回が一昨年と同数、2日午前の2回は減って、4日午前の3回は少し増えていました。今年は1回と3回が減少、2回は少し増えています。実際の受験者数は、合計すると昨年よりも少し減っていて、合格者数は昨年並みです。合格最低点は1回が昨年より少し上がり、2回は昨年並み、3回は上がっています。出題内容の影響はありますが、1・2回は昨年とあまり変わらない難度、3回は少し難化したようです。

本郷は2021年度からの高校募集を停止していて、完全中高一貫の体制になっています。一昨年は各回次の合計の応募者数が減少、昨年もやや減っていて、今年は回次により少々増減はありますが、合計では昨年並みです。受験生の学力水準が上がっていることもあって、2月1日午前の1回は合格最低点が少し上がり、2日の2回は昨年並み、5日の3回は上がっています。出題内容との関係はありますが、2回は昨年並みの難度だったものの、1回はやや難化、3回は難化したかもしれません。

世田谷学園は昨年、理数コースを新設し、2コース制になりました。在来は本科コースとなりました。理数は本科とは、入試問題は同じですが2月1日午後の算数特選以外は理科と算数の得点を2倍で可否判定を行う傾斜配点方式です。昨年までの3年間、各回次合計の応募者数は増加が続いていて、今年も増加、人気は上昇を続けています。今年は本科の増加が目立っています。ただ、4日午前の3回は応募者が減っていて、最後まで合格を求めて粘る受験生は少し減ったようです。1日午前の1回は理数の合格最低点が上がり、本科と午後の算数特選は両コースとも昨年並み、2日午前の2回は両コースとも下がっていて、3回は昨年並みでした。出題内容の影響が大きいようで、各回次ともあまり難度は変わっていないようです。

攻玉社の各回次合計の応募者数は、一昨年から小幅の増加、昨年は減少、今年は増加と、隔年的に変化しています。2月2日午前の2回、5日午前の特別選抜が増加の中心で、併願の受験生も多いようです。実際の受

験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は1月の国際学級と特別選抜が昨年並み、1回は下がって2回は上昇しています。1・2回は出題内容の影響が大きいようで、各回次とも難度はあまり変わっていないようです。

東京都市大付属は、各回次合計の応募者数では都内男子校のトップです。Ⅰ類、Ⅱ類の類型制で、一昨年は各類型各回次合計の応募者数がわずかですが減少、昨年も少し減っていましたが、今年は増加しました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年より少し減っていて、合格者を絞っています。合格最低点は2月4日午前の3回、6日午前の4回はⅠ・Ⅱ類とも少し下がっています。それ以外はⅠ・Ⅱ類とも昨年並みでした。合格者数を絞っていますから、合格最低点が下がったのは出題内容の影響が大きいようです。難度面は両類型各回次とも昨年並みでしょう。

内部進学率が高い大学附属校では、早大学院は昨年までほぼ同じ応募者数が続いていましたが、昨年はやや減り、今年は増えました。人気は上向いています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、実質倍率は少し上がっています。例年合格最低点は公表されませんが、やや難化したかもしれません。立教池袋も附属カラーが強い学校です。各回次合計の応募者数は一昨年は増加、昨年、今年と少しずつ減っています。昨年も今年も2月2日午前の1回が減少の中心です。ただ、合格最低点は1回も5日午前の2回も少し上がっていて、出題内容との関係はありますが、やや難化しているようです。受験生の減少は挑戦する受験生が減ったためでしょう。

学習院の応募者数は、一昨年は帰国生入試がやや減ったものの、2月2日午前の1回、3日午前の2回とも増えていて、昨年は2回が少し減っていましたが、帰国生入試と1回は一昨年並みでした。今年は各回次ともほぼ昨年並みです。実際の受験者数は各回次合計で少し減っていて、合格者数も少し減っています。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、2回は例年同様補欠が出ているので、各回次とも昨年並みだったようです。明大中野の2月2日の1回は、一昨年は応募者が少し減り、昨年は少し増えて、今年は昨年並みで安定しています。4日の2回は、一昨年は減少、昨年は増加、今年は再び減って隔年的な変化です。実際の受験者数も同じ傾向で、合格者数は1・2回とも昨年並みでした。1回は合格最低点が少し上がっていて、出題内容との関係はありますが、やや難化したかもしれ

ません。2回は今年も補欠を出していますが、合格最低点が下がっていて、やや入り易くなったようです。

### <中上位校～中堅前後の各校>

日大豊山は附属校カラーの強い学校で、一昨年、昨年と各回次合計の応募者数の増加が続いて人気が上がりましたが、難化が進んだこともあって、今年は各回次とも減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みで、実質倍率は少し緩和しました。合格最低点は2月4日午後の4回が昨年並みだったものの、それ以外は上昇していて、受験生の学力層の上昇がうかがえます。少し難化したようです。4回は最後まで粘らなかった受験生が減ったようで、難度は昨年並みでしょう。

獨協は大学附属ですが、附属校カラーはほとんどありません。昨年、2月1日午後に初めての午後入試を新設、それまでは各回次合計の応募者数にあまり変化が見られませんでした。一気に増加、新設の午後入試だけでなく既存の入試も増加しました。今年も各回次とも増加していて、人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は逆に少し絞っていて、実質倍率は上がっています。合格最低点は2月1日午前の1回が下がっていますが、他の回次は昨年並みです。1回は出題内容の影響が大きいようで、難度はあまり変わっていないでしょう。他の回次も昨年並みでしょう。

純粋な進学校では、成城は各回次合計の応募者数が一昨年は増加、昨年は減少、今年は増加と隔年的に変化しています。2月1日午前の1回はやや増加した程度で、併願受験生が増加の中心です。実際の受験者数も1回は昨年並み、3日の2回・5日の3回が増えていて、合格者数は各回次とも昨年並みで、2・3回の実質倍率が上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、1回は昨年並みの難度、2・3回はやや難化したかもしれません。

高輪は各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増加が続きましたが、今年は減っています。人気は一段落しました。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は1月の帰国生入試がやや下がったものの、2月の入試は各回次とも昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度は各回次ともあまり変わっていないようです。応募者の減少も、受験生が絞られたためでしょう。

佼成学園は昨年グローバルコースを新設、2コース

制になりました。今年は帰国生オンライン入試の日程を曜日の関係で変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年は一昨年並み、今年は増えています。今年は2月2日以降が増加の中心ですから、併願受験生が増えているのでしょう。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は2月2日午前の2科4科入試と適性検査型、2日午後が少し下がっていますが、他の回次は上昇しています。2日午前午後は出題内容との関係でしょう。同校の受験生の学力水準が少し上がっているようで、全体にやや難化したかもしれません。

特選・中高一貫の2コース制の京華は、今年は帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数の増加が続いています。一昨年は800名台でしたが、今年は1,400名を超えています。2月1日午前の適性検査型がやや減っていますが、それ以外は各回次とも増加しました。志望順位が高い受験生、併願前提の受験生ともに増えています。実際の受験者数、合格者数とも増えていて、本稿執筆時点で合格最低点が未公表ですが、特選・中高一貫の2コースともやや難化したかもしれません。

足立学園は、2月2日午前の入試を取りやめ、1日午前の適性検査型と2日午後の4科入試を4日午後に移しました。各回次合計の応募者数は2019年には増加していましたが、一昨年、昨年と少しずつ減っていて、今年は2日午前午後から入試がなくなったことで、かなり減りました。併願受験生よりも志望順位が高い受験生に来てほしい、という事でしょう。合格最低点は1日午後が少し上がり、3日午前が少し下がっていますが、他の回次は日程変更も含めてあまり変化はなく、出題内容との関係もありますから、難度面はあまり変わっていないようです。

聖学院はレゴを使ったものづくり思考力入試などで有名です。今年は帰国生入試の日程や科目を変更したほか、2月の入試では思考力入試で協働振り返りを追加しました。各回次合計の応募者数は一昨年前年並みでしたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数の増加は小幅で、実質倍率が上がった回次も目立ちます。本稿執筆時点で合格最低点公表されていませんが、少し難化したかもしれません。

日本学園は2月3日午後と5日午後の入試を午前に移して科目を変更、5日午前の創発学入試を午後に移しました。小規模な入試の学校でしたが、丁寧な対応

で昨年、今年と応募者が増えて、小規模を脱しています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は少ししか増えていません。合格最低点は概ね昨年並みで、難度は昨年とあまり変わっていないようです。なお、入試直前の12月23日になって、4年後の2026年度から共学化して明治大学の系列校になることが公表されましたが、2023年度入試での入学者から内部進学が始まると公表されたことから、今回の入試での応募者数にはあまり影響していないと考えられます。

### 3. 女子校

#### <難関校～中上位校>

女子御三家の桜蔭は、一昨年、昨年と、応募者数が少しずつ増えていましたが、今年は少し減っています。合格最低点は未公表ですが、今年も補欠を出していて、難度に変化はなさそうです。ただ、繰り上げのペースは昨年より早くなっているようで、桜蔭に合格しても他校(渋谷幕張などが多いようです)に流れるケースが出ています。女子学院は、一昨年は応募者数が前年並み、昨年は少し減っていますが、今年は増えています。実際の受験者数も増えていて、合格者数は昨年並みですから、実質倍率は少し上がっています。やはり合格最低点は未公表ですが、もともと高水準の難度なので、特に難化したわけではないでしょう。御三家のもう一校、雙葉は、一昨年は応募者が増えていましたが、昨年は少し減って、今年は昨年並みです。実際の受験者数はやや減っていて、欠席が増えています。合格者数は昨年並みです。合格最低点は、昨年は上がっていましたが、今年は少し下がっています。出題内容の影響もありますが、もともと高難度ですから、特に入り易くなったわけではなさそうです。

御三家に続く豊島岡女子は、2022年度から高校募集を停止、完全一貫校へ移行します。各回次合計の応募者数は一昨年前年並みで、昨年はやや減っていましたが、今年は昨年並みで、内訳では2月2日の1回が昨年並み、3日の2回は増えて、4日の3回は減っています。実際の受験者数も昨年並みですが、合格者数はやや減っていて、合格者を絞っています。補欠を出していて、合格最低点も各回次とも昨年並みですから、難度に変化は見られません。白百合学園は、一昨年は帰国生入試と一般入試の合計の応募者数が増えていましたが、昨年は一昨年並み、今年は減りました。減ったのは帰国生入試で、コロナ禍ですからしかたがありません。一般入試は昨年並みの応募者数で安定した人



気です。実際の受験者数、合格者数も同じ傾向で、合格最低点は帰国生入試、一般入試とも少し下がっています。出題内容の影響でしょう。難度面は特に変化はなかったようです。

鷗友学園は、一昨年は2月1日の1回が前年並みの応募者数、3日の2回はやや減っていて、昨年はこちらも増加、今年は2回とも昨年並みで安定した人気です。実際の受験者数も昨年並みですが、1回は合格者を絞って減らしています。2回は昨年並みでした。合格最低点は1回、2回とも昨年とあまり変わっていません。出題内容との関係はありますが、1回の合格者の減少は、同校として入学を認める基準を守ったら結果的に合格者が減った、という事なのかもしれません。難度面は昨年とあまり変わっていないようです。

学習院女子は、曜日の関係で帰国生入試の日程を1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と少し減っていましたが、今年は少し増えています。2月3日のBが目立ちます。1日のAと帰国生入試も厳密には増えています。実際の受験者数も少し増えていますが、合格者数は昨年並みで、合格最低点はAが上昇、Bも少し上がっています。出題内容との関係はありますが、やや難化したかもしれません。

立教女学院も曜日の関係で帰国生入試の日程が変更になっています。一昨年は帰国生・一般とも応募者が少し増えています、昨年は帰国生が少し減ったものの、一般は一昨年並み、今年は両方とも少し減っています。実際の受験者数も同じ傾向で、帰国生は合格者も減っていますが、一般は昨年並みです。このため、一般は合格最低点下がりました。出題内容との関係次第ですが、少し入り易くなったかもしれません。東洋英和の各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年は少し減っています。実際の受験者数も同傾向ですが、特にBは減少が目立っています。合格者数は昨年並みで、本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、少し入り易くなったかもしれません。

頌栄女子学院は曜日の関係で12月の帰国生入試の日程を変更しました。一昨年まで各回次合計の応募者数は小幅ながら減少が続いていましたが、昨年は少し増えています、今年は再び少し減っていますが、帰国生入試は昨年並み、2月1日の1回が増えて5日の2回が減っています。2回は5日と遅い日程のため、1回で不合格になった受験生の再挑戦や、他校不合格で2回に応募する受験生が減っています。入試早じまいの影

響です。実際の受験者数も同傾向ですが、合格者数は各回次とも昨年並みです。合格最低点は1・2回とも上がっていて、2回の方が上昇幅が大きくなっています。出題内容との関係はありますが、1回は受験生増加による難化、2回は受験生の学力水準が上がったの難化でしょう。

普連土学園は、入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年は減っていて、昨年は一昨年並みでした。今年は少し増えています、2月1日午後の算数1科入試が増加の中心です。他校併願の受験生が増えています。実際の受験者数、合格者数も同じ傾向で、合格最低点は算数1科入試がやや上がり、4日午前は少し下がっていますが、出題内容との関係でしょう。2日午後や4日は昨年並みで、難度面ではあまり変わっていないようです。

大妻は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されています。一昨年は各回次合計の応募者数が減っていて、昨年はやや増えています、今年は少し減っています。2月1日午前の1回と5日午前の4回が減少の中心で、2日午前の2回は増加、3日午前の3回は昨年並みです。5回の減少は入試早じまいの受験生の増加が理由でしょう。合格最低点は3日の3回が昨年並み、他の回次はやや上がっていて、全体的に同校の受験生の学力層が少し上がっているようです。

共立女子は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更したほか、2月3日午前の英語インタラクティブ入試を午後に移して4技能入試に改称しました。一昨年まで各回次合計の応募者数の増加が続いていましたが、昨年、今年と減っていて、人気は一段落です。実際の受験者数、合格者数も同傾向で、本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、実質倍率の変化が小さいので、難度面は昨年並みだったようです。

立教系列校の香蘭女学校は、長い間2月1日だけしか入試を行っていませんでしたが2019年、2日午後2科の2回を新設し、応募者数は大きく増えました。一昨年もさらに増加しましたが、昨年は1・2回とも減っていて、今年も1回がやや減って、2回は減っています。難化傾向でしたから、敬遠ムードがあるのでしょう。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、少し入りやすくなったかもしれません。

東京女学館は一般学級・国際学級の2コース制です。今年は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年、今年

と少し減っていますが、2月2日午後の国際学級と3日午前の4回は増えていて、志望順位が高い受験生が減少の中心です。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は1日午後の2回と2日午後の3回が昨年並みですが、他の回次は上がっています。出題内容との関係はありますが、同校の受験生の学力層が上がっているようで、2・3回は昨年並みの難度だったものの、他の回次は少し難化したようです。

富士見は、一昨年初めての午後入試として2月2日午後に算数1科入試を新設しました。このため、各回次合計の応募者数は増加していて、昨年はさらに増加、今年は厳密には増えていますが、昨年並みと言ってよいでしょう。ただ、実際の受験者数、合格者数は増えています。算数1科入試は合格最低点上がり、3日午前の3回は少し下がっていますが、出題内容の関係でしょう。1日午前の1回と2日午前の2回は昨年並みですから、難度に変化はなさそうです。

山脇学園は曜日の関係で11月の帰国生入試の日程を1日前倒しにしたほか、2月1日午後に英語AL入試を新設、探究サイエンス入試を2日午後から3日午後に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年以降増加が続いていて、今年も増えています。実際の受験者数も増えていて、合格者数も少し増えました。入試の種類が多いため、合格最低点の変化はいろいろですが、1日午前のA、4日午前のCは上がっていて、出題内容との関係はありますが、全体に少し難化しているようです。

品川女子学院の各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年はやや減っていて、今年も昨年並みです。ただ、2月1日午前の1回が少し減っていて、2日午前の2回は少し増えていますから、志望順位が高い受験生が少し減っているようです。実際の受験者数も同じ傾向で、合格者数は昨年並みです。合格最低点は1回が少し下がっていて、他の回次は昨年並みです。1回は少し入り易くなったかもしれませんが、他の回次は難度に変化は見られません。

田園調布学園は曜日の関係で帰国入試日程を変更しています。一昨年は初めての午後入試を算数1教科で新設、各回次合計の応募者数は大きく増えて、昨年は反動で減少、今年はやや減っているものの、昨年並みと言ってよいでしょう。2月1日午前の1回は増えていて、他の回次は少しずつ減っています。志望順位が高い受験生は増えているようです。実際の受験者数も少し減りましたが、合格者数は昨年並みで、合格最

低点は各回次とも昨年並みです。出題内容との関係はありますが、難度面は変化がなかったようです。

恵泉女学園はプロテスタント校で、一昨年は日曜日に重なったため午後に移した2月2日の入試を昨年は午前に戻しました。今年には特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年は大きく増えて昨年は減少、今年はやや減ったものの、昨年並みと言ってよいでしょう。2月1日午後の1回は少し減って、2日午前の2回は少し増えています。実際の受験者数は少し減っていて、合格者数は昨年並みです。合格最低点は1回が昨年並みですが、他の回次は下がっていて、出題内容との関係はありますが、2回以降はやや入り易くなったかもしれません。

#### <中上位校～中堅前後の各校>

星美学園は共学化して「サレジオン国際」に校名を変更しました。男女校の項をご覧ください。

昭和女子大附属は帰国生入試の日程を曜日の関係で変更、オンラインの帰国生入試を新設したほか、昨年からの1年次からの別募集になったスーパーサイエンスクラス入試を4科から国算理の3教科に変更、2月1日午後の思考力入試を2科に切り替えるなどの変更がありました。スーパーサイエンス、グローバル、本科の3コース制です。各回次合計の応募者数は一昨年は倍増、昨年も増えていましたが、今年も減っていて、人気が一段落したようです。一昨年の倍増は、その前年の夏にアメリカのテンプル大学ジャパンキャンパスが港区から昭和女子大学の敷地内に移転、昭和女子大学だけでなく、中高とも様々な連携の取り組みが行われることになったことで、実践的なグローバル対応教育が受験生に支持されたためです。今年も実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数は増えています。合格最低点は細かく見れば昨年並みのコース・回次もありますが、全体的には少し下がっていて、やや入り易くなったようです。

大妻中野はアドバンスト、グローバルリーダーズの2コース制です。今年も帰国生入試の日程を変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と減っていましたが、今年も増えていて2月2日午後の3回と4日午前の新思考力入試が増加の中心です。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は3回が上昇して少し難化したかもしれません。1日午後の2回が少し下がったり、3日午前の4回の4科が少し上がるなどが見られますが、こちらは

出題内容の影響でしょう、他の回次は昨年並みの難度だったようです。

三輪田学園は曜日の関係で帰国生入試の日程を1日繰り上げ、2月1日午前に英検利用入試を新設しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年は一昨年並み、今年はかなり増えていて、帰国生入試以外は全回次で増えましたが、特に2月1日午後が大きく増えました。実際の受験者数も大きく増えていますが、合格者数は受験者数の増加ほどは増えておらず、実質倍率は上がっています。2月1日午前午後は合格最低点が上がっていて、難化しています。2日午前、3日午前には昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度はあまり変わっていないようです。

跡見学園は一昨年からコース制を変更、特待入試・一般入試に再編成しています。今年も曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は2018年以降増加が続き、今年も増えています。増加の中心は2月5日午前の4回です。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は、1日午前の1回の4科と、4日午前の英語コミュニケーションスキル入試が上がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は昨年並みですから、難度はあまり変わっていないようです。

カトリックの光塩女子学院は、2月1日の1回に総合型を、2月2・4日の2・3回に4科の入試を実施しています。各回次合計の応募者数は一昨年からやや増加、昨年はやや減少、今年はやや増えていて隔年的な変化です。今年も3回が応募者増加の中心です。実際の受験者数、合格者数は合計すれば昨年並みで、合格最低点も各回次とも昨年並みですから、難度に変化は見られません。女子美術大付属は特に入試に変更点はありません。昨年まで各回次合計の応募者数の増加が続いていて、昨年は大きく増えましたが、今年も昨年並みです。実際の受験者数、合格者数も昨年並みで、合格最低点2月1日午前の4科が下がっていますが、それ以外は昨年並みです。4科は出題内容の関係でしょう。難度面は昨年と変わっていないようです。

実践女子学園はオンラインの帰国生入試を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年から減っていましたが、昨年、今年と大きく増えていて、一昨年は1,000名ちょっとでしたが、今年も2,700名を超えました。実際の受験者数も大きく増加しましたが、合格者数の増加は小幅で、実質倍率は上昇しています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難化した厳

しい入試だったようです。

江戸川女子は昨年国際コースを新設しましたが、今年も曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しています。一昨年は各回次合計の応募者数が前年並み、昨年、今年と少し減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。十文字も曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年が少し減っていたものの、昨年は増加、今年も厳密には増加ですが、昨年並みと言ってよいでしょう。実際の受験者数は少し増えていて、合格者数は昨年並みです。ただ、合格最低点は各回次とも上がっていて、出題内容との関係はありますが、同校の受験生の学力層が少し上がっていて、その結果、やや難化したようです。

附属カラーが強い日大豊山女子は、曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月11日の思考力入試を取りやめるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増加が続きましたが、今年も減っています。人気が一段落したのでしょうか。実際の受験者数も減っていますが、合格者数はやや増えています。合格最低点は各回次とも少しづつ下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったようです。

カトリックの目黒星美も曜日の関係で帰国生入試を1日早めました。各回次合計の応募者数は、昨年まで少しづつ減少が続き、今年も少し増えたものの小規模な入試です。合格最低点は上下いろいろありますが、不合格者が少ないので得点分布の影響でしょう。難度に変化はなさそうです。今年も系列校の星美学園が共学化しましたが、同校も2023年度から共学化、校名を「サレジアン国際学園世田谷」に変更する予定です。入試状況は大きく変わるでしょう。カトリックの聖心女子は中学での募集を帰国生のみとしていることもあって、今年も小規模な入試でした。難度も変わっていないようです。

プロテスタント校の女子聖学院は、曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月3日午前に2科4科選択の入試を新設、英語表現入試を2日午前から3日午後に移転、2日午前の日本語表現・言語数理リテラシー入試を取りやめて、3日午後にはBaM表現力入試を新設しました。各回次合計の応募者数は昨年まで少しづつ減っていましたが、今年も増加しました。入試設定の変更の効果でしょう。実際の受験者数も増えて



いて、合格者数も増えていますが、こちらは小幅です。合格最低点は各回次とも昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度に変化はなかったようです。玉川聖学院もプロテスタント校で、入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は隔年で増減が見られ、昨年は減少、今年は順番通り増えました。実際の受験者数も増加、合格者数も増えています。今年も一部しか合格最低点が公表されていませんが、公表の範囲では昨年並みで、難度面は昨年とあまり変わっていないのではないでしょう。

麴町学園女子はダブルディプロマ(同校と海外の高校の2つの高校卒業資格が同時に取れるプログラム)を実施しています。今年も曜日の関係での帰国生入試の変更や、2月1日午後に英語資格型の入試を新設するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年から増加、昨年は減少、今年は再び増加して隔年的な変化です。実際の受験者数も増えていて、合格者数も特待入試の一般合格を含めれば増えています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度はあまり変わっていないようです。トキワ松学園は入試に特に変更はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年から増加が続いていて、人気が上がっています。ただ、実際の受験者数や合格者数は昨年並みでした。合格最低点は各回次とも昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度に変化はなさそうです。

文京学院大女子は適性検査型入試を2月1日午後から午前に移すなどの変更がありました。一昨年は各回次合計の応募者数が減っていて、昨年は一昨年並み、今年は増えて、人気が上がりました。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は2月2日午後と3日午後が一部上がっていますが、得点分布の関係でしょう。それ以外は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。和洋九段女子は、グローバルコースと本科コースの2コース制です。今年も帰国生入試の日程変更や2月2日午前に入試を新設、2日午後入試から思考力の選択を取りやめて、1日午後入試にSDGsのPBL型を追加、5日午前にもPBL型を追加して10日午前入試を取りやめるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増えていましたが、今年は減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていて、合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、合格者が少ないことから、各回次の難度はあまり変わっていないようです。

京華女子は帰国生入試の日程を曜日の関係で変更

したほか、2月1日午後の特待入試に一般の応募を併設するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数はほぼ同じ水準が続いていましたが、昨年は増加、今年も少し増えていますが、実際の受験者数は少し減っていて、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は上下いろいろありますが、得点分布の影響でしょう。不合格者はあまり多くないことから、難度は昨年並みのようです。東京家政大附属は国際バカロレアの中等教育プログラム(MYP)の実施校で、Eクラスとiクラスの2コース制で、帰国生入試を曜日の関係で日程を1日前倒しとし、2月10日午前入試を算数1教科に変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年から増加、昨年は少し減って、今年も増加と隔年的に変化しています。実際の受験者数、合格者数も増えています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度面ではあまり変化がなかったようです。

佼成学園女子は帰国生入試の日程変更や、2月3日午後入試をデータリテラシーと2科からプレゼンに変更、4日午前入試を取りやめるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増えていて、今年も増加は続き、人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は概ね昨年並みです。難度面ではあまり変わっていないようです。中村は、4回実施していた特待入試を2月1日午後と2日午後集約、自己表現型のエクスプレス入試を1科として科目を英語も含めた5教科に拡大、2日午前と5日午前実施、作文のポテンシャル入試を1日午後から2日午後と5日午前に拡大するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は2019年以降増加が続き、今年も増えていて、実際の受験者数や合格者数も増えています。本稿執筆時点で合格最低点が公表されていませんが、難度は変化がなさそうです。

富士見丘は曜日の関係での帰国生入試の日程変更のほか、英語資格者対象の1教科入試に、口頭試問を追加するなどの変更がありました。一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年はやや減っていて、今年も増加と、隔年的な変化です。実際の受験者数、合格者数も増えています。本稿作成時点で合格最低点は未公表ですが、不合格者が少ないこともあって、各回次の難度はあまり変わっていないようです。神田女学園はダブルディプロマ(海外高校の卒業資格も同時取得)を進めて、イメージが変わってきた学校です。曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月3日午後

の1教科入試を2日午後に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年まで増加が続き、昨年、今年と前年並みが続いています。実際の受験者数は少し減っていて、合格者数は昨年並みです。合格最低点は上下いろいろ見られますが、不合格者が少ないことから、難度はあまり変わっていないようです。

東京家政学院は2月1日午前以外の入試に英語資格の国語選択を追加、昨年新設したSDGs入試を2日午前から1日午後に移動、1日午後に2科入試を新設するなどの変更がありました。応募総数が200名に達していない小規模な入試が続きましたが、昨年、今年と増加が続き、今年200名を上回っています。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、不合格者が少なく、難度面はあまり変わっていないようです。

北豊島、川村、淑徳SC、東京女子学園、東京女子学院、聖ドミニコ学園、国本女子、愛国、瀧野川女子学園は例年小規模な入試が続いている学校です。入試科目などに変更がある学校もありますが、今年も小規模な入試です。ただ、そのような中でも北豊島、川村、淑徳SC、瀧野川女子学園、東京女子学院は応募者の増加が目立ちました。国本女子はダブルディプロマとリベラルアーツの、聖ドミニコ学園はインターナショナルとアカデミックの2コース制ですが、各校・各コースとも難度に変化はなかったようです。成女学園は本稿執筆時点で入試結果未公表です。

#### 4. 男女校

##### <難関校～中上位校>

国立の筑波大附属は、一昨年は前年並みの応募者数、昨年は増加、女子も増えましたが男子が大きく増えました。今年は男子が減って女子は増加が続いています。男子は応募者が減ったものの、合格最低点は上昇していて、受験生の学力水準が上がっています。女子も合格最低点が上がっていますが、こちらは受験生が増えたためでしょう。いずれにしても少し難化した入試だったようです。

東京学芸大世田谷の応募者数は、一昨年は男女とも応募者が減少、昨年は男子が減少、女子もやや減っていました。今年は男女とも少し増えています。実際の受験者数は男女とも増加、合格者数は男子がやや減、女子は増えています。男女で増減が異なりますが、補欠を出していることから、男女とも難度は変わっていないようです。東京学芸大竹早は、一昨年は男子の応募者が増加、女子は前年並み、昨年は男子が一昨年並

み、女子は減っていました。今年は男子が減って女子は増えています。実際の受験者数は男子が減っていますが、女子は増えず、昨年並みでした。合格者数は昨年と同数で、同校も補欠を出していますから、難度は昨年並みでしょう。

東京学芸大国際は昨年まで応募者数に隔年現象が見られた学校ですが、今年は昨年並みで、傾向が変わってきています。今年は英語中心のA方式が減少、国内生向けのB方式は増えていて、合計は昨年並みです。実際の受験者数、合格者数も昨年並みで、検査問題が独特なので難度面はあまり変わっていないようです。お茶の水女子大附属は共学ですが、男子よりも女子の受験生が大多数です。昨年から入試が教科横断型の検査Ⅰ～検査Ⅲに変更されています。適性検査とは呼びませんが、適性検査タイプです。昨年まで3年間、女子の応募者が減っていましたが、今年は増えました。特に昨年は入試問題が大きく変わることが予告されていて、敬遠も出ていましたが、今年は2年目で昨年の検査問題を研究できるようになったことで、増加に転じています。男子は小規模で、同水準の応募者が続いていたのですが、やはり昨年は敬遠で応募者が減っていて、今年は増えました。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点ははもと公表されませんが、少し難化したかもしれません。

双子の研究教育で知られる東大附属は、推薦入試で書類選考を実施し、書類選考の合格者が面接や適性検査を受検する方式で、一般入試は適性検査と実技です。一昨年は推薦が男女とも応募者が増加、一般も女子は増加、男子は前年並みで、昨年は推薦・一般男女とも減りました。今年は若干の増減はありますが、推薦・一般の男女とも昨年並みです。合格最低点は公表されていませんが、推薦、一般とも難度に変化はなさそうです。

私立では、慶應義塾中等部の応募者数は、一昨年は男女とも減少、昨年は増加、今年はやや減っているものの、昨年並みと言ってよいでしょう。例年、合格最低点は公表されませんが、1次合格者に2次を行う2段階選抜で、補欠も出ていることから、今年も昨年とあまり変わらない高難度だったようです。渋谷教育学園渋谷は、各回次合計の応募者数が一昨年はやや減っていて、昨年、今年と増加が続いていて、今年は女子の増加が目立ちます。実際の受験者数も増えています。合格者数は昨年より少し減っていて、厳しい入試になりました。合格最低点は2月1日の1回と2日の2回

は昨年並みで、3回は男女とも下がっています。3回は出題内容の影響でしょう。難度そのものは各回次ともあまり変わっていないようです。

青山学院はプロテスタント校で、一昨年は例年の入試日程の2月2日が日曜日になったため、3日に入試を移しましたが、昨年は2日に戻しました。一昨年は3日に移って男子は併願受験生が増加、昨年は応募者が減っていて、今年は厳密には減っているものの、昨年並みです。女子は一昨年、昨年とほぼ同じ応募者数が続きましたが、今年は減りました。実際の受験者数も同じ傾向で、合格者数は昨年並みです。合格最低点は男子が上昇、女子は昨年並みで、出題内容との関係はありますが、男子がやや難化、女子は受験生が減っても難度を維持したようです。同校の受験生の学力層が上がっているのでしょう。

広尾学園は医進サイエンス、インターナショナルAG、同SG、本科のコース制で、帰国生入試の日程が変更されています。一昨年は各回次合計の応募者数が減りましたが、人気が上がって難化が進んだからです。昨年は後述の姉妹校、広尾学園小石川がスタートしたことで受験生が分散し、応募者数が減って入りやすくなることを期待した受験生も多かつたはずですが、応募者総数はやや増えた結果でした。今年は厳密には減っていますが、昨年並みの応募者数です。実際の受験者数もほぼ昨年並みで、合格者数は増えています。合格最低点は2月2日午後の医進サイエンスが上がっていて、少し難化したかもしれません。そのほかは昨年並みで、合格者が増えたのも同校の受験生の学力層が上がったからでしょう。

広尾学園小石川は、商業色が強かった村田女子高校が、広尾学園と教育連携を実施し、2022年度から共学化、校名変更でスタートした学校で、広尾学園と同等、同質の教育内容が看板です。インターナショナルAG、同SG、本科の3つの課程が設置されています。今年は帰国生入試の日程が曜日の関係で変更されています。スタート1年目の昨年は、各回次合計で約3,800名の応募があり、都内共学校トップ、首都圏全体でも埼玉県の栄東、開智に続く3位で、大変な人気で、難度面も事前予測よりも難化した結果でしたが、今年はさらに増えて4,000名を超えました。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は減って、平均の実質倍率は上がっています。合格最低点は、一部実質倍率8倍や10倍といった高倍率入試でも、合格者が少ないため、得点分布の関係で少し下がっている回次も見られますが、

全体的に難化というよりもボーダーライン付近がかなり厳しくなった入試だったようです。

國學院久我山は男女別学です。同校も曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されています。各回次合計の応募者数は昨年まで隔年的に変化していて、今年は増える順番でしたが、昨年並みでした。ST選抜、一般とも男子はやや減っている回次が、女子は増えている回次が多く見られます。実際の受験者数はやや減っていて、合格者数は昨年並みで実質倍率はやや緩和している回次が目立ちます。合格最低点は2月2日午前の2回が昨年並みで難度も変わっていないようですが、ST選抜も含め、他の回次は少し下がっていて、出題内容との関係はありますが、やや入り易くなったかもしれません。

東京農大第一は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増加が続いていて、今年も増えています。男子の増加が目立っています。実際の受験者数も増えています。合格者数は減っていて、その分実質倍率が上がっています。合格最低点は2月1日午後の1回の国算選択、2日午後の2回は国算、算理選択とも上昇していて、出題内容との関係はありますが、少し難化したようです。1回の算理選択や4日の3回は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。淑徳は東大セレクトとスーパー特進の2コース募集です。各回次合計の応募者数は、一昨年は増えていましたが、昨年は減っていて、今年は厳密には増えています。実際の受験者数も昨年並みですが、スライド合格を含めた合格者数は増えています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、スーパー特選は少し入りやすくなったかもしれません。東大セレクトは難度に変化はなさそうです。

東京都市大等々力はS特選と特選の2コース制です。今年は2月1日午後の算数1科入試を2日午後に移しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は入試回数を減らして減少、昨年も減少が続いていて、難化が進んだための敬遠ムードが見られましたが、今年は昨年並みです。実際の受験者数は昨年並み、合格者数は増えていて、平均の実質倍率は少し緩和しています。合格最低点は2月2日午後のS特選入試がやや下がっているものの、出題内容の関係でしょう。他の回次は昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。

開智日本橋はGLC、DLC、LCの3コース制で、国際バカロレアの教育を実践する学校です。曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。2015年の共学

化、校名変更以降応募者数の増加が続いていましたが、難化が進んで一昨年は各回次合計の応募者が減ったものの、高学力層の受験生に支持されて昨年、今年と再び応募者が増加しています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、本稿執筆時点で合格最低点が未公表ですが、各コース各回次とも少し難化したようです。

三田国際学園はメディカルサイエンステクノロジー(MST)、インター、本科の3コース制でしたが、同校の中では入り易かった本科の募集を停止、新たにインターナショナルサイエンスコース(ISC)を新設、MSTは2年次からの編成としました。各回次合計の応募者数は、一昨年は前年並み、昨年は少し減っていましたが、今年は小幅ですが増加しました。本科の募集停止で敬遠が起きるとの予測もありましたが、そのようなことはなかったようです。ただ、実際の受験者数は少し減っていて、合格者数はもう少し高い割合で減らして、絞っていることがわかります。本稿執筆時点で合格最低点はまだ公表されていませんが、さらにやや難化したかもしれません。

芝浦工大附属は2017年に板橋から豊洲に移転した学校で人気が続いていましたが、昨年男子校から共学化して、さらに人気上がり各回次合計の応募者が増えましたが、今年は減っています。帰国生入試は別として、男子は全回次で減っていますが、女子は昨年並みや増えている回次もあります。昨年は共学化で、女子の受験生の分だけ男子の門は狭くなると言われていましたが、それでも多くの男子受験生が挑戦しました。しかし、やはり不合格者も多く、今年は難度が受験生に浸透したことから、男子の応募者が減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年よりやや増えていて、実質倍率は下がっています。しかし、合格最低点は各回次とも上がっていて、出題内容との関係はありますが、少し難化したようです。

成城学園の応募者数は、一昨年は2月1・3日の1・2回の合計でやや減っていて、昨年は少し増えて、今年は厳密には減っていますが、昨年並みと言ってよいでしょう。実際の受験者数は少し減っていて、合格者数は増えていますから、実質倍率は緩和しています。合格最低点は1・2回男女とも昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度に変化はなさそうです。

### <中上位校～中堅前後の各校>

まず話題の2校から。千代田国際は2018年から募集

を休止した千代田女学園が改称し、共学校として募集を再開する学校ですが、千代田女学園には生徒が在籍していないので、実質的な新設校です。高校は2018年から共学化して武蔵野大学千代田高等学院になっています。英語、サイエンス、PBL・SELを特徴とする教育内容です。入試は帰国生入試のほか、一般は2月1日午前の1回と午後の2回が2科4科選択、2日午前の3回は2科または算英選択、午後の4回は算英または算理選択、4日午後の5回は2科、5日午後は思考力入試として、2科の基礎問題+思考力問題で入試を実施しました。各回次合計で344名の応募者があり、平均では約1.5倍の実質倍率でした。本稿作成時点で合格最低点が未公表で、最終的には大手公開模試での集計結果を待たなければなりません、中堅校レベルの難度だったようです。

サレジアン国際学園は星美学園が共学化、校名を変更する学校で、インターナショナルアドバンス、同スタンダード、本科の3つの課程の募集です。インターナショナルは英語を週10時間実施するほか、アドバンスは英数理社の授業を英語で実施、本科は英語を週8時間実施するほか、理数教育や探究活動に力を入れます。帰国生入試のほか、一般入試は2月1日午前と午後、2日午後、3日午後、4日午後の実施で、1日午後はスタンダードと本科、4日午後は本科の募集、他の回次は全ての課程の募集です。アドバンスは全回英語と英語エッセイ、スタンダードと本科は1日午前、2日午後、3日午後が2科4科選択、1日午後は4科から1科選択、本科のみの募集の4日午後は適性検査型思考力問題です。各回次合計の応募者数は400名を超えて、星美学園の時より大きく増えています。難度面では本稿執筆時点で合格最低点が未公表ですが、昨年より難化したでしょう。

他の学校は、比較的的内部進学率が高い大学系の学校から見ていきます。

日大系列校の中では比較的進学校カラーが強い日大第二は入試に特に変更点はありません。一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年少し増えていましたが、今年は減っています。実際の受験者数は減っていて、合格者数は昨年並みですから実質倍率は緩和していますが、合格最低点は各回次男女とも昨年並みで、出題内容との関係はありますが難度は変わっていないようです。今年の応募者の減少は安全志向の強まりで挑戦受験生が減ったのが理由でしょう。

日大第一は日大第二より附属カラーが強い学校で、

同校も入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は昨年まで増加が続いていましたが、今年は昨年並みです。しかし、実際受験者数の増加は続いていて、欠席が減っています。実際の合格者数も増えていて、合格最低点は2月1日午前の4科1回と5日午前の2科2回が昨年並み、1日午前の4科2回が少し下がり、3日午前の2科1回は上がっています。4科2回は出題内容や得点分布の関係でしょう。4科1回や2科2回ともども難度に変化はなさそうです。2科1回は少し難化したようです。

目黒日大は2019年に日出が日大の準付属校になって校名を改称した学校です。今年は2月1日午前の1回を2科4科選択と適性検査型の並行実施から、4科のみとするなどの変更がありました。日出のときは入りやすい小規模な入試の学校でしたが、各回次合計の応募者数は増加が続き、今年も増えて人気が上がっています。実際受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、2月1日午後の算理入試と2日午前の適性検査型は昨年並みの合格最低点だったものの、他の回次は上がっています。出題内容との関係はありますが、同校受験生の学力層が上がっていることもあって、全体的に難化したようです。東海大高輪台は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は3年間増加が続きましたが、今年は少し減っています。実際受験者数も少し減っていますが、合格者数は昨年並みで平均の実質倍率は少し緩和しました。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、やや入り易くなったかもしれません。

次に附属ではない学校や附属カラーの薄い学校を見ていきます。青稜は帰国生入試の一部の日程を変更したほか、昨年試行したタブレット入試は実施しませんでした。各回次合計の応募者数は、一昨年は減少、昨年は増加、今年は少し減少と、隔年的に変化しています。実際受験者数も少し減りましたが、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は2月1日午前の1回A、午後の1回B、2日午前の2回Aは昨年並み、2日午後の2回Bは少し下がっています。出題内容との関係はありますが、2回Bも含めて、難度はあまり変わっていないようです。

東洋大京北は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年は若干増加、昨年は減っていて、今年は少し増えています。実際受験者数はかなり増えていて、欠席が減っています。男女別では男子が目立っています。合格者数は若干ですが昨年

より減っていて、実質倍率は上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、少し難化したかもしれません。

グローバル対応の教育で知られるかえつ有明は、曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月3日午後の入試に2科を追加しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増加が続き、今年も増えて人気が上がっています。実際受験者数も増えていますが、合格者数は減っていて、絞っていることがわかります。本稿執筆時点では合格最低点が公表されていませんが、特待入試は昨年並みの難度、それ以外は各回次とも少し難化したようです。

宝仙学園理数インターは自己アピール型やアクティブラーニング型の入試が多く、その種類は多彩です。今年は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されています。各回次合計の応募者数は、一昨年は減っていましたが、昨年は増加、今年も少し増えています。実際受験者数も少し増えましたが、合格者数はかなり減っていて、平均の実質倍率が上昇しています。昨年は合格最低点が未公表のため、比較はできませんが、難度面はあまり変わっていないようです。

順天も曜日の関係で帰国生入試を1日前倒しにしました。隔年現象が見られる学校で、一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年は減少、今年は順番通り増えましたが、大幅な増加です。実際受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は2月2日午前の2回が少し上がり、1日午前の1回Aと2日午後の2回Bが下がっていて、1日午後の1回Bと4日午後の3回が昨年並みですが、変化している回次は出題内容との関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

駒込は国際先進と本科(AGS)の2コース制でしたが、昨年からは国際先進に一本化しています。今年は2月1日午前の入試での英語選択を2日午前に移し、午後の適性検査Bを午前に移してAと並行実施とし、2日午前は適性検査Cは取りやめて、プログラミングのSTEM入試と自己表現入試を4日から繰り上げるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、2019年から増加が続いていて、今年も増えています。実際受験者数も増えていますが、合格者は少し減っていて、平均の実質倍率は上がっています。例年合格最低点は未公表ですが、少し難化したかもしれません。

品川翔英は一昨年、小野学園女子が共学化、校名を変更した学校です。今年は2月2日午前の入試を取りやめて、午後のグループワーク入試とプログラミング



入試を1日午後と4日午後に加えて、2日午後、3日午後、4日午後、5日午前に4科から2科を選択する入試を実施するなどの変更がありました。以前は小規模な入試の学校でしたが、共学化で各回次合計の応募者数は大きく増加、昨年、今年と大幅な増加が続き、各回次合計の応募者数は1,100名を超えました。今年は応募者が倍増なので、実際の受験者数、合格者数も倍増で、2月1日午前は昨年並み難度だったものの、他の回次は少しずつ上がっています。出題内容との関係ですが、やや難化したようです。

文教大付属は、適性検査型のみらい創造入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は一昨年がやや増加、昨年は少し減っていて、今年は増えて隔年的な変化です。実際の受験者数は昨年並みで、欠席が増えていますが、合格者数は少し減らしています。合格最低点は2月1日午前の1回と2日午後の4回が上がっていて、出題内容との関係ですが、少し難化したかもしれません。5日午前の5回はやや下がっていますが、小幅ですから昨年並みだった1日午後の2回や2日午前の3回とともに、昨年並みの難度でしょう。

安田学園は、先進特待と総合(一般)の2コース制です。今年は2月1日午前と2日午前の適性検査型先進特待入試に2科4科選択を追加しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増加が続き、今年も増加しています。実際の受験者数、スライド合格を含めた合格者数も昨年より増えています。合格最低点は1日午前の適性検査型が昨年並み、1日午前と2日午前の総合入試は下がっていますが、それ以外の先進特待入試はいずれも上がっています。出題内容との関係はありますが、人気が高い先進特待コースは受験生の学力水準が上がって、少し難化したようです。総合コースは逆に少し入り易くなったようです。

淑徳巣鴨はスーパー選抜と特進の2コース制で、今年は曜日の関係で帰国生入試の日程が1日前倒しになっています。各回次合計の応募者数は3年間増加が続き、今年もさらに増えています。実際の受験者数、合格者数も増えました。合格最低点は2月1日午前の特進1回が少し下がっていて、他の回次は昨年並みです。特進1回は出題内容との関係でしょう。全体としては難度に変化はなかったようです。

多摩大目黒は特待特進と進学の2コース制です。入試日程や科目には変更ありません。各回次合計の応募者数は一昨年少減、昨年は大きく増加、今年は昨年並みです。実際の受験者数も昨年並みで、合格者数は

少し増えています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度は昨年並みでしょう。立正大立正は入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、2019年以降増えていて、今年も増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、平均の実質倍率が上がっています。合格最低点は各回次・科目・男女で上下いろいろ見られますが、合格者数が多い回次では上がっている回次が目立っていて、得点分布を考えても、少し難化していると考えた方がよいでしょう。

八雲学園は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されています。2018年に女子校から共学化した学校で、各回次合計の応募者数は共学化時に大幅に増加、翌年も少し増えましたが、一昨年は前年並み、昨年は減りました。しかし、今年は再び増加しています。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は各回次とも概ね昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

文化学園大杉並は日本とカナダ両方の高校卒業資格を取得できる「ダブルディプロマコース」を首都圏で最初に開始した学校で、2018年に女子校から共学化しました。今年は帰国生入試の日程変更やオンラインも含めた拡大、一般入試では2月3日午前に2科4科の入試を追加しました。2018年は共学化で各回次合計の応募者数が大きく増えて一昨年まで増加が続きましたが、昨年は一昨年並み、今年は入試増設もあって再び大きく増えました。実際の受験者数、合格者数も増えています。本原稿執筆時点で、合格最低点は未公表ですが、難度はあまり変わっていないようです。

城西大附属城西は帰国生入試の日程を変更したほか、2月1日午後の英語入試を午前に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年は増えていましたが、昨年は少し減っていて、今年は増えて隔年的な変化です。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は上下が目立つ回次も見られません。得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないと思われます。郁文館はiP選抜、特進、GL特進、進学の4コース制で、今年は帰国入試を1回に削減、2月4日午前の適性検査型や、4日午後の2科入試、13日午後の特別編成入試を取りやめたほか、2月2日午前のiP選抜を1日午後に移して4科から2科に変更、3日午前の未来力入試を2日午後に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増加が続きましたが、今年は減りました。実際の受験者数は少し減っていて、合格者数も減って

います。本稿執筆時点では合格最低点が未公表ですが、各コースとも昨年並みの難度だったようです。

東京成徳大は曜日の関係で帰国生入試を1日前倒しにしたほか、2月1日午後の適性検査型入試を取りやめました。一昨年は各回次合計の応募者数が減っていましたが、昨年は少し増えて、今年はさらに増えました。人気が上がっていて、実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は受験者数が少ない回次で一部上下が目立つものもありますが、得点分布の影響が強く、難度面はあまり変わっていないようです。帝京大帝京は、帰国生入試の日程が変更されましたが、一般入試の日程や科目に変更はありません。各回次合計の応募者数は一昨年少し増えていましたが、昨年、今年と少し減っています。実際の受験者数、合格者数も少し減りました。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。

桜丘は曜日の関係で帰国生入試を1日前倒しにしたほか、2月1日午前、2日午前の思考力入試を適性検査型に変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年までも増加が続いていましたが、昨年、今年と大幅増加が続いて今年は1,400名を超えました。人気が大きく上がっています。実際の受験者数、合格者数もかなり増えています。合格は基準点方式で例年と変わっていませんから、難度に変化は見られません。

目白研心は帰国生入試の一部の日程を変更したほか、2月2日午前入試での4科受験と適性検査型を取りやめ、算数特別入試を増設するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年在り増加、昨年、今年とまとまった増加が続き、人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、不合格者が少ないこともあって、難度に変化は見られません。

共栄学園は特進、進学2コース制です。今年は2月2日の午前入試を午後に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年在り増加、昨年は減っていて、今年も少し減っています。実際の受験者数も減っていますが、スライドを含む合格者数は増えている、不合格者が減っています。合格最低点は一部上下が目立つものもありますが、得点分布の影響が強く、難度はあまり変わっていないようです。

実践学園は、高校からの募集だったリベラルアーツアンドサイエンスクラス(LA&S)を中1からの募集とし、在来クラスと併せて2コース制になりました。

LA&Sは帰国生や、国内生でも英語力に自信がある受験生が対象で、定員10名の少人数制で、2月1日午後と2日午後の2回入試とも作文、英作文と面接が入試科目です。このほか、帰国生入試の変更や、在来クラスでは2月3日午前に自己PR入試を新設、適性検査型入試を1日午前から午後へ移動、4日午前1教科入試を算数のみとするなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年は減少、今年大きく増えました。LA&Sの新設が、在来クラスのイメージアップにもつながっています。実際の受験者数、合格者数も少し増えています。合格最低点是不合格者が少ないこともあって上下が目立つ回次もありますが、難度は昨年並みでしょう。LA&Sは入試科目が作文と英作文ですから、難度のコメントは控えます。

日本工業大駒場は得意科目型など、多彩な科目選択の学校で、今年も入試日程ごとの選択科目配置の見直しや、2月2日午後プレゼン入試を新設するなどの変更がありました。もともと工業高校の併設中学校としてスタートした学校で、進学校化を進めています。昨年から高校の工業科が募集停止になって、進学校としての認知度が上がってきました。一昨年まで各回次合計の応募者数は増加が続き、昨年は一昨年並みでしたが、今年再び増加しています。実際の受験者数、合格者数も増加、合格最低点の一部に上下が目立つ回次もありますが、不合格者数があまり多くないことから、難度は昨年並みでしょう。

上野学園はアドヴァンスとプログレスの2コース制で大学受験体制に結びつくコース制ですが、音楽専攻も選択できる学校です。今年は2月4日午前入試での4科選択を取りやめるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は昨年まで増加が続きましたが、今年昨年並みでした。ただ、実際の受験者数は減っていて、合格者も減っています。合格最低点の一部を除いて少し下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったようです。

成立学園は2月1日午前1回と2日午前の3回の2教科入試を国算だけでなく算理や算社も選択可能にしたほか、2日午前の適性検査型を取りやめるなどの変更がありました。一昨年まで各回次合計の応募者数が200名に満たない小規模な入試でしたが、昨年、今年と応募者が増加して小規模を脱しています。今年実際の受験者数も少し増えましたが、合格者数は減っていて、合格最低点の一部に上昇している回次もあり

ますが、得点分布の影響でしょう。昨年並みの合格最低点が多く、難度に変化はなかったようです。

新渡戸文化は2月2日午前に2科の入試を、3日午後スピーチ・口頭試問の好きなこと入試を追加するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は200名に満たない小規模な入試が続いていましたが、今年は大きく増加して小規模を脱しました。学校改革が進んでイメージが変わってきたことが人気の理由です。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は例年未公表ですが、不合格者は少ないため、難度に変化はなさそうです。

駿台学園、国士舘、目黒学院、東京立正、武蔵野、貞静学園は小規模な入試の学校です。入試にいろいろな変更点がある学校もあり、今年はこの6校とも昨年より応募者が増えていて、駿台学園、国士舘、貞静学園、東京立正は増加が目立ちますが、今年も小規模な入試でした。難度もあまり変わっていないようです。

なお、東邦音大東邦と修徳、高校を併設していない清明学園は本稿執筆段階では入試結果未公表でした。

● 東京23区 難易度別グルーピング ●

11ページのグラフは、各校の代表的な今春の入試に向けての直前予測における難易度(今春の受験生が志望校決定の参考にしたと思われる難易度、結果偏差値ではありません)をもとに、東京23区私国立中を次のようにグルーピングして作成しました。公立一貫校は合否分布の幅が広いので、ここでは外しています。また、特待入試等では特待生合格を前提とした難易度です。なお、このグルーピングは学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…麻布・海城・開成・駒場東邦・筑波大駒場・武蔵・早稲田・早大学院・桜蔭・鷗友学園・女子学院・白百合学園  
・豊島岡女子・雙葉・慶應義塾中等部・渋谷教育学園渋谷・筑波大附属・広尾学園(医進サイエンス・インター)
- B…学習院・暁星・攻玉社・芝・城北・巣鴨・成城・世田谷学園・高輪・東京都市大附属・本郷・明大中野・立教池袋  
・大妻・学習院女子・共立女子・香蘭女学校・品川女子学院・頌栄女子学院・東京女学館・東洋英和・富士見  
・普連土学園・立教女学院・青山学院・お茶の水女子大附属(女子)・開智日本橋(G L C・D L C・特待)  
・國學院久我山(男女S T)・芝浦工大附属・淑徳(東大)・東京学芸大国際・東京学芸大世田谷・東京都市大等々力  
・東京農大第一・広尾学園(本科)・広尾学園小石川・三田国際学園
- C…足立学園(特奨)・佼成学園(特奨)・獨協・跡見学園(特待)・江戸川女子・大妻中野・恵泉女学園・光塩女子学院  
・昭和女子大附属・聖心女子(帰国のみ)・田園調布学園・山脇学園・お茶の水女子大附属(男子)・開智日本橋(L C)  
・かえつ有明・國學院久我山(男女一般)・淑徳(スーパー特進)・順天・成城学園・青稜・東京学芸大竹早・東大附属  
・東洋大京北・日大第二・宝仙学園理数インター・安田学園
- D…足立学園(一般)・京華(特選)・佼成学園(一般)・聖学院(特待アドバンス)・日大豊山・跡見学園(一般)  
・京華女子(特待)・麴町学園女子(特待)・佼成学園女子(特奨)・実践女子学園・十文字・女子聖学院・女子美術大附属  
・玉川聖学院・東京家政大附属(特進E)・トキワ松学園(特待)・中村(特待)・日大豊山女子・三輪田学園・目黒星美  
・和洋九段女子(グローバル)・郁文館(i P 選抜・特進・G L)・共栄学園(特待特進)・駒込・淑徳巣鴨  
・多摩大目黒(特待特進)・千代田国際・東海大高輪台・東京成徳大(特待)・日大第一・文化学園大杉並・文教大附属  
・目黒日大・八雲学園
- E…京華(一般)・聖学院(一般)・日本学園・愛国・川村・神田女学園・北豊島・国本女子・京華女子(一般)  
・麴町学園女子(一般)・佼成学園女子(一般)・淑徳S C・成女学園・聖ドミニコ学園・瀧野川女子学園  
・東京家政学院・東京家政大附属(進学i)・東京女子学院・東京女子学園・トキワ松学園(一般)・中村(一般)  
・富士見丘・文京学院大女子・和洋九段女子(本科)・郁文館(進学)・上野学園・共栄学園(進学)・国士舘・桜丘  
・サレジアン国際学園・実践学園・品川翔英・修徳・城西大附属城西・駿台学園・清明学園・成立学園  
・多摩大目黒(進学)・帝京大帝京・貞静学園・東京成徳大(一般)・東京立正・東邦音大東邦・新渡戸文化  
・日本工業大駒場・武蔵野・目黒学院・目白研心・立正大立正